

令和3年度 山形県立山形東高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

- 学校の教育目標

1 創造力に富み、心豊かでたくましい人間の育成

2 自主的・自律的に行動できる、個性豊かな人間の育成

3 広い視野を持ち、国際社会に貢献できる人間の育成
- 本年度の重点目標

1 いのちの教育と生徒指導の充実

2 探究型学習の推進による学力の向上

3 進路指導の充実とキャリア教育の推進

4 地域連携の促進と郷土愛の醸成

5 健康の保持・増進と安全・安心な学校づくり

6 読書習慣の形成と感性教育の推進

○ 本年度の評価

【評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった】

領域	重 点 目 標	具体的目標・評価指標	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
学習指導	【探究型学習の推進による学力の向上】 1 自立した学習者を育成するため、自ら課題を発見し解決を図る探究型学習を学校教育全体で推進する。 2 全ての生徒の基礎学力充実のために、授業中心主義を徹底する。 3 生徒の授業評価による授業改善や研究授業を通した授業力の向上を図る。 4 授業及び家庭学習においてICTの効果的な活用を推進する。 【読書習慣の形成と感性教育の推進】 5 読書を心の糧とすべく、生徒が利用しやすい読書・学習の環境を整備する。 6 芸術鑑賞の機会を多く設け、豊かな感性を養う。 7 探究型学習にも対応する図書館環境を整備し、その活用を支援する。	・授業改善に向けて、探究型学習を取り入れた授業の互観を年3回（内、他教科を1回）以上行う。 ・毎日の家庭学習時間を、年次＋2時間以上を目標に取り組ませる。 ・探究型学習の成果として、校外発表を年間50件以上行う。 ・読書を推奨し、年間一人平均15冊以上の読書量をめざす。 ・校内読書感想文コンクール等への積極的な応募を促し、提出率100%をめざす。 ・教科学習及び読書のための図書館及び図書資料の利用を積極的に推進する。	B	・1・2年次ともに年間を通じて少しずつはあるが増加しており、目標が達成されている。高校生のための学びの基礎診断としてのスタディサポートの分析結果を職員で共有し、生徒との二者面談などの機会に生かしながら、生徒の学習意欲の喚起につなげることができてきている。 ・目標自体を変更し、次年度以降の3観点評価に対応した授業改善を各教科で実施した。 ・地域課題の解決に向けた研究を含め、校外発表において、探究活動の成果が延べ88件発表された。 ・消毒や換気、座席数の削減をしながら図書館の適切な利用を推進した。 ・図書委員会は、昨年度立ち上げた新たな企画を継続し、意欲的に取り組めた。	・部活動などを含めた生活リズムが大切である。適切な課題の内容・量を、教科・年次と連携しながら設定していく。 ・目標自体を次期学習指導要領に対応したものに変更する。 ・全てのグループが発表できている状況ではないところを改善する。 ・昨年度新たに出した企画は、今年度も好評であったので、来年度も継続する予定である。	A	・探究型学習のパイオニア校として、取り込み手法や実践にも慣れ、生徒の学習意欲の向上に役立てていることが伝わってきた。先の読めない社会や世界の動きの中、自分自身で課題を発見し、解決策を考えてみたという経験は、どの生徒にとっても貴重な財産となることであろう。探究型学習のポイントは、やって終わりではなく、お互いに評価・検証し合うことなので、発表を生状態で見せ合える環境作りが重要である。時間割や指導要項などの障壁を乗り越えて「探究」を共有し合える場を今後たくさん作ってほしい。 ・探究型学習の推進は、ここにある通り自立した学習者を育成し、自ら課題を発見・解決を図るという素晴らしい理念のもと行われていると認識しているが、一方でその推進によって学力の向上を目指す、直接的に結び付けておられるようだ。若干違和感を覚える。 ・探究型学習の多彩なプログラムは、生徒の知的好奇心を大いに刺激するものであると考える。 ・それぞれの興味・関心に合わせてテーマを決め、それを研究し、堂々と発表していて成長を感じた。 ・コロナ禍で活動が制限される中、探究型学習や発表など、積極的に取り組むことができていると思う。引き続き活動を続けて、レベルアップを図っていただければと思う。
進路指導	【キャリア教育の推進と進路指導の充実】 1 生徒が自己の在り方生き方を考え、進路選択・決定とその実現に向けた努力ができるように、「キャリア教育総合実践プログラム」に基づきキャリア教育を推進する。 2 3年間を見通した進路指導を行うため、各年次で必要な指導について共通理解を持って進める。 3 大学入学改革に対応し、高い進路志望を実現するための指導方法について研究を深める。	・学びのストーリーを用いて、年次ごとに自立して学ぶ力を段階的に身につけるとともに、学習指導について、本校の実情を踏まえ、グローバル化や他県・他校の状況を視野に入れながら、3年間を見通した指導内容や指導法の研究に努める。 ・東大・京大合格者数合わせて2桁を目指す。 ・難関大学、国公立大学医学部医学科の学校推薦型選抜・総合型選抜について研究を深め、現役合格者数のアップを図る。 ・キャリア教育推進のため、郷土研修・首都圏研修等で他機関と十分な連携を図る。また、生徒の学ぶ力を育むため、各課・各年次と共通した認識で指導を実践する。学業面だけではなく、生活の様々な悩みを解消し健全な心身の発達を目指すために、保健課との連携を深める。	B	・職員の研修、生徒のOB・OGとの懇談等は対面での実施が難しかったが、オンラインで行うことによりその特性を生かしてより深く学ぶことができた。 ・コロナ禍にありながらも対面の生徒向けの外部講師による講義、郷土研修を実施できた。	・3年間の指導の流れ（学びのストーリー）の理解を深めてもらう機会を増やす。 ・各年次の進路検討会で情報の共有や課題についてさらに具体的に検討し解決の手立てを講じる。	B	・志望大学のレベル、成績にも下降の徴候はなく、混乱期の授業運営の裏側には学校や教員、保護者の見えない努力がたくさんあったと想像できる。難関校への合格者数に一喜一憂せずに、たとえ成績的には末端の生徒であっても、子供たち全体の進路への欲求や前向きな姿勢の「質」を評価し、学校の自信と信頼に代えてほしい。大学選びや進路志向には、近年大きな価値観の変化が始まっている。保護者や学校が、決して押しつけることのない進路指導が求められていることには敏感であってほしい。 ・OB・OGとの懇談や外部講師による講義はキャリア教育にも大いに有益だと思う。オンラインも適宜活用しながら、さらなる充実を期待したい。 ・生徒の一人ひとりが自分の考え方を主体的に考えることは、非常に重要である。そしてその結果として進学実績が上がることは喜ばしいことである。しかし、東大・京大合格者数を目標として掲げることは、上記の考え方とは矛盾することなのではないか。東大・京大の合格者数にこだわることは、受験指導の押しつけになりかねない。 ・生徒のOB・OGとの懇談会や、3年生からAO入試の合格体験談を聞くことができ、生徒のやる気につながった。 ・難関大学への進学は、今まで同様素晴らしい結果を挙げていると思う。一方で、自らが何を学びたいか、これから何をしていきたいかを考え、行動できる生徒たちを、探究型学習によって育てていってほしい。

生徒指導・特別活動	【いのちの教育と生徒指導の充実】 1 かけがえのない自分の「いのち」と他者の「いのち」を尊重する姿勢を育む。 2 教員による生徒観察と家庭との連携を深め、健全で充実した学校生活の基盤を形成する。 3 生徒会活動と部活動を充実させ、自己実現を図り、連帯感を醸成する。	・登下校時の安全を図り、交通事故ゼロをめざす。 ・学校内外を問わず、いじめを許さない人間性を育み、その防止に取り組む。 ・毎月の出席率平均が99.0%以上をめざす。前期において各年次の皆出席者を明確にし、1年間皆出席者を全校生の50%をめざす。 ・3年間皆出席者を3年次生徒の25%をめざす。 ・部活動等で団体5種目以上、個人種目10人以上の全国大会出場をめざす。 ・社会参加・ボランティアを促し、各種の地域・施設情報を特定掲示板で毎月定期的に紹介し、参加しやすい体制をとる。	B	・各種特別活動や行事等において、感染症対策との両立を図りながら、工夫を凝らして活動に取り組むことができた。 ・新型コロナウイルスの流行の中で今までと違う生活スタイルにも対応し、数値の改善も見られた。	・皆出席者の減少傾向は続いているが、生活リズムを整え、強い体と心を育てるため、保健課などと連携していく。 ・登下校時の安全面に関して、自転車利用時の危険性について年度当初の段階から注意喚起を徹底し、事故の減少に努める。	B	・皆出席者の減少については、社会事情を鑑みても致し方ないものと感じる。それよりも、出席している生徒の様子の変化に気づける見守り環境の強化が大切である。授業だけではなく、部活動や課外活動で、担当教員が変わった場合でもカルテで連携できているか、ネットワークの活用で担任以外の生徒のデータにもアクセスできるよう、学校全体で共有方法を簡素化することが重要であろう。 ・不登校生徒については、孤立や疎外感を覚えないよう、生徒とオンラインをうまく活用しながら、関係維持・復帰に努めていただきたい。 ・部活動やその他の活動は人間形成に大きく寄与し、その後の人生を豊かにするものであるから、大いに奨励すべきである。 ・マナーアップ運動では登校時、安全な自転車の乗り降りをし、保護者に元気よく挨拶していた。 ・規則正しい生活は、学校生活の充実と家庭環境、そして部活動にあると思う。メリハリのある生活ができるよう、引き続きの御指導をよろしく願いたい
健康安全指導・環境整備	【健康の保持・増進と安全・安心な学校づくり】 1 生徒及び教職員の心身の健康の維持・増進を図る。 2 危機管理体制をハード・ソフト両面から整備し、災害・事故の防止に努める。 3 学習環境の整備・保全とその美化に努める。 4 新型コロナウイルス等の感染症予防対策を徹底する。	・生徒保健委員会の「保健だより」年間8回、保健課発行の保健室だよりを年間8回発行して、心身の健康の保持増進を図る。 ・年18回のカウンセラー相談日を設定し、生徒・保護者との教育相談活動を充実させる。 ・清掃徹底日（毎週水曜日）と月例大掃除の取組みにより、校舎内外の環境美化に努める。 ・防災・災害対応訓練を年4回行い、危機管理意識の高揚と生活・校舎の安全を図る。 ・学校医と連携した保健管理体制を整え、感染症予防対策を徹底する。	A	・保健だより等は生徒保健委員の意欲的な取り組みにより予定回数を超えて発行することができた。新型コロナ感染症予防対策等についての呼びかけを重点的に行った。 ・防災・災害対応訓練を年4回実施することができた。定期的(毎月1回)に校舎の安全点検を実施することができた。	・今年度に引き続き新型コロナウイルス感染症予防対策を実施していく。 ・校舎の老朽化に伴い、危険箇所や修繕箇所が発生する可能性が高まっている。安全点検等を通して情報収集に努める必要がある。	A	・感染者、クラスターなどを防げていることで満点評価としたい。もしもの事態に備える時間があるということなので、健康状態を把握するシステム、感染時の連絡方法、様々な場面でも休校、閉鎖、リモート授業のパターンをシミュレーションしておけると心強い。大学でもかなり綿密に準備をしているつもりだったが、毎回思いがけないパターンが現れて、対応が一瞬遅れそうになるが、それでも準備しておくことで、学生や教員の対応意識が高まっていて、優れた初動のおかげで何度も救われてきた。一人ひとりの認識に落とし込むには、学校全体の危機管理が生徒の一人ひとりに伝わるまで発信し続けることが重要である。 ・前項の「いのちの教育」と、この「健康安全指導」の項目では、重複する部分も感じられるので、御検討いただけると助かる。 ・新型コロナ感染症予防対策では、マスクの着用や換気等の呼びかけが重点的に行われ、生徒も気をつけて行動していた。 ・コロナ禍でも大きく体調を崩したり、心の病になったりする生徒が少ないのは、先生方、カウンセラーの方々の努力のおかげだと思う。まだまだ予断を許さない状況かとは思いますが、生徒・先生方の心身の健康に努めていただきたい。
家庭地域の連携	【地域連携の促進と郷土愛の醸成】 1 地域の魅力や課題をよく知り、郷土やまがたに対する誇りと愛着を持った生徒を育てる。 2 探究活動や社会参加活動において、積極的に地域との連携を促進する。	・PTA総会・研修会（公開授業を実施）の出席率70%以上をめざす。 ・PTA会報を定期的に発行するとともに、保護者・学校評議員等の意見を聴き、経営改善に努める。	B	・年次毎のPTA総会を実施した。2年次の出席率(69.9%)を除き、70%を超える出席率だった。 ・PTA会報、学校評議員との懇談会は予定通りに行うことができた。	・各種アンケートや行事等を通して、保護者・地域の意見を吸い上げ、学校・家庭・地域との連携強化に努める。 ・地域で活躍する卒業生や県内企業・研究機関とのネットワークの整備をすすめ、より充実した企画を通して、郷土愛のさらなる涵養に努める。	B	・特になし。個々の保護者やPTAとの温度感が不明なので、学校側の自己評価を支持する。 ・探究活動において、地域と連携して実施することができた。PTA総会や研修会は、どの年次も出席率が良かった。 ・地域企業との交流や、探究型学習による課題解決など、様々な面で関わりが出てきている。社会との接点を持ち、学習に生かしてほしいと思う。

学校 運営		・「山形県公立学校における働き方改革プラン」の趣旨を踏まえ、働き方改革を推進し、土曜講習等に伴う代休措置の取得率 100%をめざす。 ・「エコ・環境保護」を合言葉に水道、光熱費及び消耗品費等の節約に努める。	B	・土曜講習等の勤務振替措置の取得率は各年次とも 1 0 0 %であった。 ・光熱水費対前年度比(1 月末現在)は次のとおりであった。普通教室へのエアコン導入、手洗いの励行、料金の値上げもあり、光熱水量は増加した。 電気 9.7%(713,525 円)増 水道 7.0%(278,821 円)増 ガス 8.3%(65,848 円)増 全体 8.7%(1,058,194 円)増	・業務の効率化等を通し、働き方改革を一層推進する ・コロナ対策として、換気や手洗いを励行しつつ、電気のこまめなスイッチの切り替えや節水を教員及び生徒に呼びかけていく。 ・校舎内外・体育館照明の L E D 化工事を予定している。	B	・特になし。学校側の改善プランを支持する。大学でも課題となっているが、この社会状況における教職員の働き方の改善が、最重要事項であることには強く賛同する。 ・コロナ対策として、換気や手洗いを励行しつつ、節電・節水を今後も心がけていただきたい。 ・この冬の寒さや、コロナによる換気の励行などで、光熱費が上がってしまったのはやむを得ないと思う。設備の切替え等により、一時的に費用はかかるが、快適な学習環境と経常費の低減を目指していただきたい。
----------	--	---	---	--	---	---	---